

一念、岩をも通す2009

茗溪塾塾長 宇野雅春

インフルエンザの大流行の中で、いよいよ本格的な受験勉強が始まっています。インフルエンザによって学級閉鎖とか学校閉鎖が繰り返されると、何か勉強のペースもかき乱されてしまうようです。感染も交互に起こるため、一時的な閉鎖があまり効果になっていないようにも思えます。ここは予防をきちんとしながら、平常の生活をいかに続けるのかが課題のようです。中学生は内申を取るための定期試験対策が真最中。この時期になると、「一念岩をも通す」という言葉が頭に浮かびます。奇跡のような合格物語なのですが、実はそこに大事な秘密があるように思えてきました。「なぜ、思いつめると成功が手に入るのか？」

努力を積むことで誰も彼もが成功するわけがありません。それに「合格したい」のは誰しも同じ、思うだけで成功するとは限らないはずですが、これは多分仕事などにも共通することだと思っております。岩をも通す一念というのは、もしかしたら、そこに大きな創意と工夫と忍耐があるのではないかと考えています。

勉強が大変なのは皆同じです。仕事も大変なもの、それほど人によって大差が無いはずなのです。成功するかしないかが、その人の才能や運の良さのせいにされることもよくあります。勿論それもあるとは思いますが、多分違うのは、そこに失敗や無駄がありつつもそこを超える創意と工夫と忍耐が必ずあるということです。

例えば、受験勉強の一番一般的な努力は、夜寝ないで勉強するということです。

「4当5落」という4字熟語？4時間睡眠なら合格で5時間寝ていたら不合格という「格言」です。睡眠を減らすことが「努力」の象徴のように言われてしまうと、とにかく徹夜で勉強した方が、がんばっているというイメージになります。徹夜のあとは決まって眠りほうけるか、昼間はうつらうつら、非能率的な状態が長く続き、最悪は体を壊して、長期で休んでしまったりということになります。「一念岩をも通す」ということを、ただ時間だけがむしやりにやる！ととらえられてしまうと、それは多分効力をもたらずものにはならない気がします。本当に実を結ぶ努力というのは、真剣に考えていろいろと自分で手を尽くすことだと思っております。一念という言葉の中にそうした思い悩み、光を見つけるプロセスが込められているということ。良かれと思ってやったことでも、失敗したり、逆効果になったりすることもあります。でも、本当に努力する人はそこで必ず考えて次に進むということなのです。無駄をしない努力、自分をふり返り自分を変える努力、人の意見に耳を貸す努力、人が言っていることを実践的に試してみる努力、いいと思えたことを実際にやってみたり真似したりするのも努力のうちだと思います。

11月の大学入試説明会では、「生活習慣形成力+総合的な学ぶ力」が大きなテーマでした。最も効率の良い学習を保証する生活習慣を作ることと、学ぶ力=段取り力+説明力+楽しさを大切にすることを提案しました。合格したいという一念があれば、自分の学習への工夫が生まれます。そのきっかけは、人の言葉。岩をも通す一念が、人の言葉を真剣に受け止める態度へと変わっていきます。周りの人の全ての言葉が、自分の学力を高める為のヒントになり、その実践から更にやる気が生まれてきます。毎年ある「一念岩をも通す」人たちの実践は、こんな風の実現されていったのではないかと...。思い返すほどに確信が深まります。